

16. Uni-Voice事業企画株式会社 耳で聴くハザードマップ

Uni-Voice事業企画(株) 耳で聴くハザードマップ

企業名	Uni-Voice事業企画株式会社
機器・サービス名	耳で聴くハザードマップ
問合せ先	info/atmark/uni-voice.co.jp (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	視覚障がい者がハザードマップの内容を理解できるよう、地図面の情報を音声で提供するサービスです。目から情報を取得することが困難な方たちにも災害リスク情報や警報・注意報、避難場所の情報を音声で伝えることができるため、いざという時の避難行動に役立てることができます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● スマートフォンのGPSで現在地情報を取得し、その情報に紐づいた気象情報や水害に関するハザードマップ情報を提供。その地点だけでなく、周囲の情報(近くの川や海岸、半径～mのリスク情報)も併せて伝えるため、晴眼者が紙のハザードマップで得られる情報と差分なく情報提供が可能になります。 ● 最寄りの避難場所へはコンパス機能を使って音声と振動で誘導するため、地図が読めない視覚障がい者でも避難場所の位置を把握することが可能です。 ● 耳で聴くハザードマップは、音声コード読み取り用アプリ「Uni-Voice Blind」のコンテンツ。そのため場所や時間を選ばず、“自分で”今いる場所の災害リスク情報を即座に知ることができます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● スクリーンリーダーに準拠しているため、視覚障がい者だけでなく、点字ディスプレイを介して盲ろう者も利用可能。 ● 色のコントラストに配慮し、大きくて見やすいボタンを採用。 ● 多言語(英語、中国語[簡体字・繁体字]、韓国語、ベトナム語)にも対応しているため、日本語に不慣れな在留外国人や訪日外国人にも音声とテキストで情報を伝えることが可能。

Uni-Voice事業企画(株) 耳で聴くハザードマップ

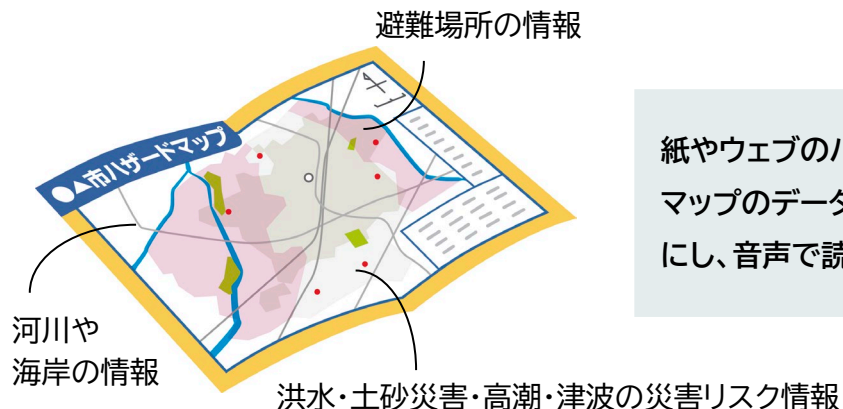
耳で聴くハザードマップは、音声コード読み取り用アプリである「Uni-Voice Blind」のコンテンツです。



Uni-Voice Blind



ハザードマップ画面



紙やウェブのハザードマップのデータをテキストにし、音声で読み上げ



現在地の情報画面

避難情報

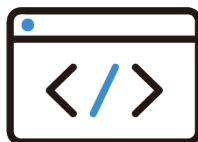
気象情報や警報・注意報

5 緊急安全確保

4 避難指示

3 高齢者等避難

自治体からの新着情報や防災ガイドブック



現在地に関する避難情報、警報・注意報、気象情報などのデータを集約し、音声で読み上げ

自治体ホームページの新着情報

警報・注意報
気象情報

音声読上げ形式の防災ガイドブック

避難情報

情報がこれ一つに

画面を開けばすぐ分かる



Uni-Voice事業企画(株) 耳で聴くハザードマップ

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 近年、日本各地で局地的大雨や線状降水帯による集中豪雨などが頻繁に発生しており、ニュースでも「お住まいの地域のハザードマップをご確認ください」とよく耳にするようになりました。
こうした中で視覚障害当事者からも「自分たちでもわかるハザードマップはないのか」といった声を多く受けるようになりましたが、ハザードマップの多くは紙やウェブサイト上にあるものがほとんど。目が見えない、見えにくい視覚障がい者はこの情報に自分でアクセスすることができていませんでした。
こうした状況を何とかしたい、そうした思いで耳で聴くハザードマップの開発がはじまりました。
- 開発の段階では日本視覚障がい情報普及支援協会の方たちと連携し、スクリーンリーダーでの操作性やアイコンの大きさや色のコントラストなどといった使い勝手の面での意見をもらい、改善を重ねてきました。リリース後においても、当事者宛に実施したアンケートや問合せフォームでいただいた意見や要望などを基に機能のアップデートを実施。「すべての視覚障がい者が使えるハザードマップ」として今後も品質の向上に努めてまいります。

企業としての 組織的な取組

- 弊社では日頃より視覚障がい当事者の方々からの声をもとに製品やサービスの開発を行っています。この”声”というのは、もちろん日常生活において不便と感じていることへの悩みの声です。その声から、弊社では音声コード読み取り用アプリをはじめとして、音声読み上げ形式のウェブサイト「耳で聴くWebサイト」や、ハザードマップの内容を音声で聴くことができる「耳で聴くハザードマップ」の開発を行ってきました。
すべての視覚障がい者が晴眼者と同じように「読める」社会を目指し、今後も製品やサービスの開発に取り組んでいきます。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 障害のある人だからこそハザードマップのアクセシビリティを高めることは命に関わる。とても重要な開発である。
- ・ このような取組が行なわれることで、防災や災害時での対応について、視覚障害者にとって非常に大きな影響を与えることと思われる。
- ・ 視覚障害者にとって地図のような二次元的な情報は読み取りが難しい。特に災害時の避難のような重要な情報を音声で疑似体験できる点は優れている。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ コンパス等、利用者の立場に立った機能が備わっている点が評価できる。
- ・ スクリーンリーダーへの対応で、音声だけでなく、点字の出力にも対応している点が評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 社内の全盲/弱視の当事者にヒアリング、操作性や表示の改善を行っており、リリース後も意見を踏まえてアップデートを実施している。
- ・ 日本視覚障がい情報普及支援協会とパートナーシップを組み、視覚障害者の多様なニーズを反映させて開発を進めている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ 障害者団体とも連携しており、アプリだけでなく、社として情報発信の際にもアクセシビリティに対応している。
- ・ 特定の視覚障害者のニーズに偏らず、視覚障害のダイバーシティを念頭に置いて実用に耐えうるレベルになるように対応を進めている。
- ・ また、情報入手に関する課題は外国人にも当てはまるものであり、そのような方たちに向けてアクセシビリティ向上に努めている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 現在のアプリは事前学習を目的としているが、実際の災害時におけるハザードマップの状況の変動や、避難ルートの変動などに事前学習での対応を今後期待する。
- ・ 今回は水害ハザードマップに関することであるが、水害以外のハザードマップにも対応することで、視覚障害者にとってさらに有用なアプリになることを期待する。
- ・ 平常時の閲覧の意味を理解するが、災害時に切実に必要になるものであり、さらなる工夫を期待したい。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 経路案内において、信号や障害物の検知など、安全に誘導するための画像認識やガイド機能の充実を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 本アプリの有用性を広く認知してもらうため、視覚障害者への情報提供、多くの人に知ってもらう工夫や、地方公共団体への利用呼びかけが重要であり、対応を期待する。